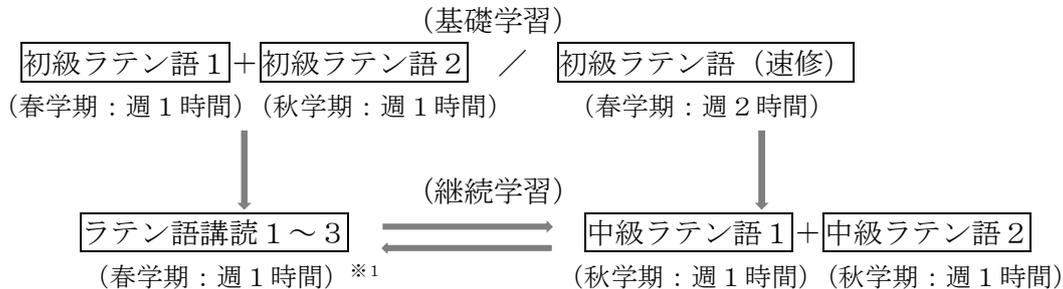


古典語（ラテン語）学習について



※1 1～3は3年周期で一科目ずつ開講。1～3でレベルの違いはありません。

- ・ラテン語の学習は**基礎学習**と**継続学習**に分けられます。
- ・学習の道筋は次の二通りが考えられます。
 - (1) 「初級ラテン語 1」と「初級ラテン語 2」を1年かけて学び、次年度は、春学期に「ラテン語講読 1～3」のいずれか（履修年度に開講されている番号）を、秋学期に「中級ラテン語 1」、「中級ラテン語 2」の両方もしくはどちらか一方を履修し、学習を継続する。以降、春学期に「ラテン語講読 1～3」のいずれかを履修し、講読の学習を継続する（「中級ラテン語」の未履修の番号がある場合、秋学期にこれを履修することができる）。
 - (2) 週2時間の「初級ラテン語 (速修)」を選択し、春学期で文法事項を一通り学び終え、秋学期に「中級ラテン語 1」、「中級ラテン語 2」の両方もしくはどちらか一方を履修し、学習を継続する。次年度以降は、春学期に「ラテン語講読 1～3」のいずれかを履修し、講読の学習を継続する（「中級ラテン語」の未履修の番号がある場合、秋学期にこれを履修することができる）。
- ・「中級ラテン語 1・2」、「ラテン語講読 1～3」では、履修者のラテン語学習歴によって学力差が想定されますが、担当教員ができる限りサポートします。
- ・「中級ラテン語 2」と「ラテン語講読 1～3」はどちらも講読の授業で、レベルの違いはありません。「中級ラテン語 1」は発展レベルの文法を学ぶ授業です。「初級ラテン語 (速修)」で集中的に文法知識を身につけた履修者は、「中級ラテン語 1」で継続して文法を学び、「中級ラテン語 2」で講読を学ぶことができます。上記(1)の経路で学習し、「初級ラテン語 1・2」(春・秋学期)から「ラテン語講読 1～3」(春学期)に進んだ人も、「中級ラテン語 1・2」を履修することができます。
- ・語学学習は継続することが必要と言われますが、古典語の読解力を身につけるには、学習を継続し、読解の経験を積むことが不可欠です。継続して講読の授業を履修できるように、「ラテン語講読」には1～3の番号を設定し、3年周期で一科目ずつ開講しています。
- ・ラテン語学習に関する相談は、次のアドレスまでお問い合わせください。科目履修、独習その他、なるべく有益な助言をできるようにします。

kotengokyojin@list.waseda.jp (文学学術院教員 宮城 徳也)